

ボラ  
ン  
テ  
ィ  
ア  
×  
研  
究

実  
は  
あ  
い  
ま  
も  
ボ  
ラ  
ン  
テ  
ィ  
ア  
×  
研  
究

3/8(wed) 13:00-16:00

@ 91年館多目的ホール

### 「ボランティアって意外と、研究につながるよね。」

そんな都立大生、実は意外と多いのです。  
あなたの隣にいる人もそうかもしれないし、そうしたいけどやり方がわからない方もいるかもしれません。

今回、そんな風にボランティアと自身の研究を繋げている学生が集まって、ゆるめに真面目(?)なトークセッションを行います。それぞれの研究内容について、自由に話を聞ける時間もあります。

ボランティアが好きの方、他分野の学生の研究内容を聞いてみたい方、そもそも研究ってどんなことをするのか気になる方にオススメです。  
みなさんのご参加をお待ちしております。

### タイムテーブル

- ①オープニングトークセッション
- ②ポスター発表  
発表者ごとにブースをご用意いたします。  
各ブースを自由に訪問し、ご交流ください。
- ③クロージングトークセッション



詳細・お申込み

## 登壇者紹介

1



### 沓掛 丈

理学研究科生命科学専攻  
動物系統分類学研究室 M1

Q. 研究内容を教えてください。

A. コムカデという、ムカデではないけれどムカデっぽい形をした、真っ白で1cmもない小さな生き物が土の中にいます。これまでコムカデは、人との関わりが乏しいのであまり調べられてきませんでした。でも、生物学的に面白い特徴はいっぱいあります。私はそんなコムカデが何種類いて、どう進化してきたのか明らかにする研究をしています。

Q. どんなボランティア活動を？

A. 私は一般の方々に生物多様性や生物の魅力を伝える教育普及活動をしています。これまで、いきもの！サークル東京として、節足動物園や都立大いきもの園という生物の展示活動を、学内外で4年以上行ってきました。

Q. ボランティア活動と研究の関連性について教えてください。

A. 活動には展示資料の作成・生物採集・文献調査などが必須で、これらは研究する上で技能・知識向上に寄与しました。さらに活動を通じて研究仲間もできました。また展示そのものが客観意見を集める場として重要です。

3



### 山崎 航輝

人文科学研究科人間科学専攻  
教育学教室 M1

Q. 研究内容を教えてください。

A. 今、現在多くの子供達が貧困・不登校・いじめ問題に苦しんでいます。私は、その要因として子どもが誰かに相談できるつながりがないことで、子どもが1人で苦しみなどを抱え込んでしまうことが原因なのではないかと考えます。その原因を解消していくために、地域のつながりと子ども達が相談のできる場とは何かを模索しています。

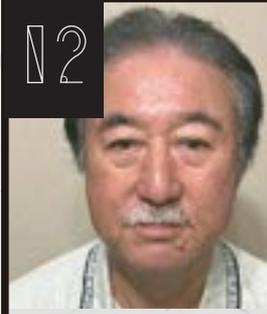
Q. どんなボランティア活動を？

A. 私は子ども達に関わる事が好きで、学部生時代には人形劇のボランティア、院生では子ども食堂のボランティアと子どもに関わるボランティアをしてきました。子どもの笑顔が、元気の源です。

Q. ボランティア活動と研究の関連性について教えてください。

A. 人形劇や子ども食堂で子ども達と関わっていると、子ども達の元気な声や笑顔を開けて嬉しです。その一方、日本全国には何かしらの苦しい現状に、直面している子ども達がいて、その現状を解決していきたいです。

2



### 大和田 明宣

プレミアム・カレッジ  
研究生コース

Q. 研究内容を教えてください。

A. 企業で長年勤務した人達は、多くの時間を会社で働く仲間との時間に費やしている為に、自らが居住している地域との関わりが少なくなっています。その様な状況にある会社人間が、退職を契機にその後の人生の過ごし方を見直す機会に遭遇した時に、どの様な事を考えているのかについて明らかにすることを目的に研究をしています。

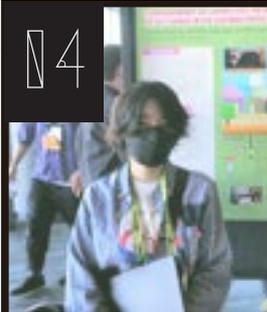
Q. どんなボランティア活動を？

A. 1999年から約2年間、地域の街づくり活動を目的としたNPO法人フュージョン長池の事務局長を担当し、街作りに興味を持つメンバーと多様な活動を実践してきました。仕事が多忙となりボランティア活動から離れて今に至ります。

Q. ボランティア活動と研究の関連性について教えてください。

A. 私は、会社員として働きながらボランティア活動を行う難しさを経験しました。その経験は、退職後に自らが自由に使える時間を得た会社員が、ボランティア活動についてどの様に考えているか調査研究を行うきっかけになりました。

4



### 宮崎 仁美

システムデザイン研究科  
インダストリアルアート学域  
インタラクティブアートスタジオ M1

Q. 研究内容を教えてください。

A. 起立性調節障害という、中高生によくある自律神経系の病気の治療法として、運動が推奨されています。しかし、実際に「運動をしろ」と言われても、やる気が出なかつたり……。私は、そんな子どもたちが、それぞれの症状に合わせて楽しく運動に取り組めるようなゲームを開発しています。

Q. どんなボランティア活動を？

A. 学生コーディネーターとしての活動や、地域ボランティアプログラムでの里山保全活動に取り組んできました。それ以外にも、小学校での授業補助・中高生を対象にした居場所づくりといった子どもと関わるボランティア活動に参加していました。

Q. ボランティア活動と研究の関連性について教えてください。

A. 起立性調節障害を取り巻く環境は、学校との関連もあり、非常に複雑です。その複雑な環境や、学校現場の課題をよりよく把握し、何かしらのコンテンツを提示したいと思っています。そうした中で、これまでのボランティア経験は知識になっています。

## お申込み

申し込みフォームからお申し込みください。  
また、本講座に関するご質問がある場合は  
ボランティアセンターまでご連絡ください。

※本講座は、東京都立大学または東京都立大学大学院  
所属の学生・教職員のみ対象です。



詳細・お申込み

## お問い合わせ

東京都立大学ボランティアセンター  
(南大沢キャンパス 1号館1階)

mail:tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp

TEL:042-677-1354 HP:https://volunteer.tmu.ac.jp/

## アクセスマップ

91年館

## SNS各種

Twitter :@tmu\_volunteer

Youtube (チャンネル名) : 東京都立大学ボランティアセンター